

MRI用造影剤 製剤別適応一覧表

日本医学放射線学会 造影剤安全性委員会 2022年4月改訂

造影剤				添付文書		NSFリスク分類		投与経路	脳・脊髄 躯幹部・四肢	肝臓	消化管
分類	販売会社	製品名 略号	キレート構造	重篤な腎障害のある患者の記載区分	効能・効果に関連する使用上の注意の記載*	ESURガイドライン (ver.10.0)	ACRマニュアル 2021				
細胞外液性 造影剤	エーザイ	プロハンス Gd-HP-DO3A	非イオン性 環状型	原則禁忌	(1)	Lowest risk	Group II	静脈内投与	○		
	GEヘルスケア ファーマ	オムニスキャン Gd-DTPA-BMA	非イオン性 線状型	禁忌	(1)および(2)	Highest risk	Group I	静脈内投与	○		
	ゲルベ・ ジャパン	マグネスコープ Gd-DOTA	イオン性 環状型	原則禁忌	(1)	Lowest risk	Group II	静脈内投与	○		
	バイエル	ガドピスト Gd-BT-DO3A	非イオン性 環状型	特定の背景を有する患者に関する注意	(1)	Lowest risk	Group II	静脈内投与	○		
肝特異性 造影剤	PDRファーマ	リゾピスト						静脈内投与		○	
	バイエル	EOB・プリモピスト Gd-EOB-DTPA	イオン性 線状型	特定の背景を有する患者に関する注意	(1)	Intermediate risk	Group III	静脈内投与		○	
経口消化管 造影剤	大塚	フェリセルツ						経口投与			○
	協和キリン	ボースデル						経口投与			○

*効能又は効果に関連する使用上の注意の記載
 (1) ガドリニウム造影剤を複数回投与した患者において、非造影T1強調MR画像上、小脳歯状核、淡蒼球等に高信号が認められたとの報告や脳の剖検組織からガドリニウムが検出されたとの報告があるので、ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断すること。
 (2) 本剤を含む線状型ガドリニウム造影剤は、環状型ガドリニウム造影剤より脳にガドリニウムが多く残存するとの報告があるので、本剤は環状型ガドリニウム造影剤の使用が適切でない場合に投与すること。

【ACRマニュアル NSFリスク分類】
 Group I : Agents associated with the greatest number of NSF cases
 Group II : Agents associated with few, if any, unconfounded cases of NSF
 Group III : Agents for which data remains limited regarding NSF risk, but for which few, if any unconfounded cases of NSF have been reported

○: 添付文書において適応とされる項目